子ども食堂 ネットワーク広がる

情報共有し食料融通

孤食や貧困に直面する子どもたちを食で支援しようと、関東各地で急速に広がる「子ども食堂」のネットワークが広がっている。栃木県では2月に「こども食堂サポートセンター・とちぎ」が発足、18日に食堂運営者や開設を目指す人などを集めた「栃木県内こども食堂情報交換会」を初めて開く。千葉市では2015年、「千葉市子ども食堂ネットワーク」が稼働。円滑な運営に向け、情報を共有して食料を融通し合いながら、支援の輪を広げている。

「昭和こども食堂」で子どもと食事をするボランティアら（こども食堂サポートセンター・とちぎ提供）

全国で30以上 栃木にセンター

子どもの貧困が社会的な問題となる中、関東各地で子ども食堂の開設が相次いでいる。提供する食材は、地元農家や一般企業などによる規格外野菜や余剰食品の寄付で賄っている。

栃木県内では昨年3月時点で食堂の開設は2カ所だったが、現在は20カ所以上に増えた。

ただ、食堂間のつながりがなく、情報が共有されていないためボランティアや寄付に偏りがあるのが課題だった。

そこで同県では、若者らの就労支援に取り組む同県若年者支援機構（宇都宮市）が中心となり、食堂の運営支援や県内20カ所のネットワーク化に取り組む。食料を提供したい農家やボランティアをしたい市民、子ども食堂をつなぐ役割を担い、開設や運営を支援する。

今後、「こども食堂スタッフ研修」も開き、食堂の始め方や円滑な運営方法、子どもとの接し方などを助言する方針だ。

同センター子どもの貧困対策事業部の荻野友香里さんは「子ども食堂の新設を支援しながら、ネットワーク化することで全体の質を上げ、子どもたちの力になりたい。特に農家からの生鮮野菜の寄付はとてもありがたい」と感謝する。

◇

千葉市では15年に、子ども食堂開設を目指す人らが集まり、「千葉市子ども食堂ネットワーク」を発足した。メンバーらが現在、四つの子ども食堂を運営。食材提供の窓口となり加入団体に割り振っている。2カ月に1回、食堂開設を検討する人を含めた会合を開き、情報を共有する。担当者は「今後はボランティアの割り振りや、子ども食堂の地図づくりにも取り組みたい」と展望する。

220の子ども食堂運営団体が参加する「こども食堂ネットワーク」によると、子ども食堂は推定400以上あり、ネットワークをつくった組織は30を超えるという。

首都圏リポート

緑地帯

失敗を肥やしに

先日、茨城県古河市でアイデア農具を作り、農業を実践する沖田和雄さん㊾を取材した。沖田さんは「農業も農具開発も失敗の連続だ。それでも失敗や挫折を宝にして肥やしにすることが大切、作物も人も同じだ」と人生の大先輩から失敗の大切さを学んだ。

自分はよく、取材先で「記者になってどのくらいなの」と尋ねられる。3月末まで新人記者だったため「まだ1年目なんです」と言うと、取材先で的外れな質問をして赤っ恥をかいても、取材相手は丁寧に教えてくれた。「1年目」という立場に甘えていたわけではないが、1年目という〝肩書〟が外れた今年、失敗することに不安を感じていた。そんなとき沖田さんの言葉で不安も少し、払拭（ふっしょく）できたように思えた。

4月から記者2年目となっても、いまだに失敗は多い。例えば、取材で具体的な数字やデータを聞き

材することと

ときも表記

ばしば。イ

真を撮ると

解けてきて

てきた瞬間

のような上

は落ち込む

も失敗は宝

かせる。「次

心に刻む。

にして良い記

花を咲かせ

る。植竹部会長は「産地

万円と定め、産地の確立

無料で楽しめる初の「桐

ートしている。古民家を